

今回は僕が良くスタッフに言ってる「つかいアンテナ」の話です。こちらからカードや様々な支援機器を使い語りかける。そこまでは出来ます。その時の子どもたちの反応が重要。その反応をいかに受信するか、受信できるか、ここが最も支援者にとって重要だと思います。ヘルパーの講師などの時もこれは重要視しています。「つかいアンテナを持って」これはほんとに大切。このアンテナは「感覚」だけで補えないとしても、今は便利な世の中☆色々な機械が御座いまして・・・こじ♪是非皆様、毎年京都で行われる ATAC カンファレンスにお越しやす・・・。

久田

第 38 回『わかるように伝えていますか』

香川大学 坂井 聡

☆フィードバック

今回は、フィードバックについてです。

フィードバックは、送り手が出したメッセージに対して受け手側がどのように評価して、どのように受け止めたのかといったようなメッセージの効果を直接反映する情報のことです。メッセージの一つと考えてよいでしょう。

典型的なフィードバックは、送られてきたメッセージを受け取った時に、顔をしかめる、微笑む、頷くなどがあります。つまり、メッセージの受け手側の発する非言語的なメッセージということになります。

双方向のコミュニケーションを円滑にしようと思えば、このフィードバックを敏感に知覚して、そこに込められているメッセージを理解する必要があります。そして、その後発するメッセージに修正を加えながら、それに対して適切に反応することが求められるということです。多くの人は、瞬時にこれらを行い、やり取りを続けたり、打ち切ったり、話題を変えたりするようなことを行っているのです。

1) 発達障がいのある子どもの場合は

発達障がいのある子どものなかには、このフィードバックを知覚して、適切に反応を返すことが困難な子どもがいます。表情などの、非言語的なメッセージを理解することに、困難を抱えている人が多いからです。相手は、直接伝えたら、きつく言ってしまうことになり、その結果相手が傷つくのではないかといったようなことを考え、遠慮がちに表現し、それが表情だったり、ジェスチャーだったりするのですが、それが伝わらないのです。その結果、空気を読めないというように言われることがあります。空気が読めないという程度であればいいのですが、相手が不快に感じていることを読み取ることができなかったときに、トラブルになることがあります。

2) どのようにすればいいのか

練習するという点からいうならば、表情を読み取る練習などをする必要があります。そのためには、自分の気持ちや感情に気が付くように練習することも大切です。日記などを書くことを通して、その時の自分の気持ちを振り返るようにするのです。その時大切なことは、その時の写真等を用意し、表情を見ながら気持ちを考える練習をすることです。「この時の気持ちを楽しいというのよ」とか、「こんな時は悲しいというのよ」などと確認して練習するのです。表情と合わせて練習することで、表情と感情を関連させることができるようになる子どももいると考えられます。そのような練習もしながら、学校生活のさまざまな場面で、「相手がこのような表情を返してきたときは、こういうことを伝えてきているのです」ということを確認し、感情を読み取る練習をしていくのです。

感情表現の練習をするときに、今、富士通と共同で開発研究をしているスマートフォンのアプリが使えると思います。もうすぐ、公開することができると思います。お楽しみに！！！！なお、それらのアプリを使った授業を公開する研究大会が来年の1月21日に香川大学教育学部附属特別支援学校で行われます。ぜひ見に来てください。

こちら側の対応ですが、困るときは「今は困ります」とはっきりと伝えることが大切です。曖昧な返事をする、その子どもには伝わらないからです。はっきりと理由と一緒に伝えることが重要です。

坂井聡先生の紹介

(プロフィール)

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞

(著書)

暮らしの中のコミュニケーション (やまびこの里) クラスルームコミュニケーション (こころりす出版会) 自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア (エンパワメント研究所) など